［認知症対応型共同生活介護用］

1.　評価結果概要表

評価確定日　平成22年1月6日

【評価実施概要】

事業所番号	4072900329
法人名	有限会社　風のふく丘
事業所名	グループホーム　風のふく丘Ⅱ
所在地 （電話番号）	福岡県小群市吹上694番地1 （電　話）0942－72－1830
評価機関名	社団法人　福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7－1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年11月30日

【情報提供票より】（平成21年11月23日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　15年　10月　10日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	16　人	常勤　13人，非常勤　3人，常勤換算　4.4人

（2）建物概要

建物形態	併設／単独	新築／改築
建物構造	木 造	
	2 階建ての　1 階　～　1 階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	25,000　円		その他の経費（月額）	20,000　円
敷　金	有（　90,000　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,000　円			

（4）利用者の概要（平成21年10月10日現在）

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2	名	要介護2	1	名
要介護3	3	名	要介護4	0	名
要介護5	3	名	要支援2	0	名
年齢　平均	84 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	丸山病院、筑紫歯科クリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは周囲に田畑が広がる自然豊かで静かな住宅地に位置している。管理者は障害者施設での勤務経験があり、人権意識も高く、入居者一人ひとりの希望や思いをくみ取り、その人らしくゆったり穏やかな日々が過ごせるようにとの思いを抱いている。また、職員の研修参加も積極的にすすめており質の向上に取り組んでいる。管理者、職員が理念を共有して日々実践に取り組んでいることが利用者の穏やかな表情から理解できる。地域住民との交流も盛んで、今後更に地域に信頼されて大きく発展する期待が持たれる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回評価での改善点はないが、評価結果を運営推進会議や家族会議で報告し、地域活動や同業者との交流に積極的に取り組んでいる。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価を行うことの意義を理解しており、全職員が分担して評価を行って、管理者が職員と話し合って自己評価をまとめている。自己評価への取り組みで日々の業務を見直す機会を得ている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

老人クラブ会長、民生委員、市町村担当職員、家族等の参加で2カ月に1回運営推進会議を実施している。「今後入居待機者が多くなるので申し込み順でなく新たな基準を作っては？」と参加者からの意見を受けて、意見を活かすため検討している。地区の介護保険研究会や高齢者虐待防止委員会等の勉強会へ参加したり、キャラバン・メイト事務局定例会などへ積極的に参加して、市町村担当者等との交流を通じたサービスの質の向上に取り組んでいる。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部8，9）

病院受診など健康面に関することはその都度家族へ電話で報告している。家族会や運営推進会議の場で要望や意見を聞くようにしている。苦情受付箱を設置している。面会の折には職員が話し合いの機会を設けて要望や意見を聞いて運営に反映させている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

12月の餅つき大会を子供たちと一緒に実施したり、中学校の職場体験を受け入れたり、ホーム前の通学路では行き帰りの子供たちと挨拶を交わしたりして交流している。また、校区公民館主催の夏祭りに出店（手作りコロッケ）し、利用者家族の協力を得て全員で参加して地元の人々と交流することに努めている。

2.　調　査　結　果（詳細）

（ □ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気で全員笑顔でのんびりと不満、不安をなくし暮らしやすい生活ができるように思いやりある介護をめざします」「地域の人といつも笑顔であいさつ」という、スタッフが考えを出し合って事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月開催している勉強会や職員会議、毎朝の申し送りなどで理念の共有を図り、日々実践に取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	12月の餅つき大会を子供たちと一緒に実施したり、中学校の職場体験を受け入れたり、ホーム前の通学路では行き帰りの子供たちと挨拶を交わしたりして交流している。また、校区公民館主催の夏祭りに出店（手作りコロッケ）し、利用者家族の協力を得て全員で参加して地元の人々と交流することに努めている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義を理解しており、全職員が分担して評価を行い、管理者が職員と話し合って自己評価をまとめている。自己評価への取り組みで日々の業務を見直す機会を得ている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	老人クラブ会長、民生委員、市町村担当職員、家族等の参加で2カ月に1回運営推進会議を実施している。「今後入居待機者が多くなるので申し込み順でなく新たな基準を作っては？」と参加者からの意見を受けて、意見を活かすため検討している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地区の介護保険研究会や高齢者虐待防止委員会等の勉強会へ参加したり、キャラバン・メイト事務局定例会などへ積極的に参加して、市町村担当者等との交流を通じたサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修に参加した管理者や職員が、内部研修会で説明して職員同士の学ぶ機会を作っている。現在入居者2名が成年後見制度の手続き中である。		
４．理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりなどは面会の機会に伝えて、病院受診など健康面に関することはその都度家族へ電話で報告している。金銭管理は少額を自己管理（3名）している利用者もいるが、基本的には立て替えて利用料請求時一緒に請求している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議の場で要望や意見を聞くようにしている。苦情受付箱を設置している。面会の折には職員が話し合いの機会を設けて要望や意見を聞いて運営に反映させている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の希望を可能な限り受け入れた勤務体制等を工夫して、離職を抑える努力をしている。代わる場合は、2人体制の勤務を組み、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
５．人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用にあたって性別や年齢等を理由に採用対象から排除することなく、23歳～65歳の男女職員が勤務している。職員の希望に応じて有給休暇や公休もとれるように配慮されており、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権尊重の意識が高い。日々の介護場面で気付いた事などを研修会で話し合ったり、外部の人権研修に参加した職員が内部研修で報告したりして職員に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会主催の研修会や協力病院の内部研修（インフルエンザ対策）へ参加している。また、職員からの研修会参加希望を受けて研修を受ける機会を確保している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が地域のキャラバン・メイトの定例会に参加して他施設職員と交流の機会を持ち、勉強会や情報交換を行いサービスの質を向上させる取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、家族・本人の来訪を勧めて利用者・職員と一緒に昼食を摂ってもらい、場の雰囲気に馴染んで本人が納得して利用を開始できるよう工夫している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	医師の往診があると「洗面器とタオルを準備して」と、利用者がかつて自宅で行っていた習慣を職員に伝えたり、昔からの言い伝えや洗濯物の干し方、料理手順などを学ぶこともあり、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1．一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の希望や意向を聞き把握するように努めている。外出日時の約束を、本人の目の前で連絡を取ったり、納得できるような対応を心がけ、随時叶えてあげられるようにしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向をもとに、職員で話し合い決めている。主治医からは往診時意見を聞き、家族が面会時、主治医の意見と日頃の状況を伝えている。毎朝の申し送りの際の情報や日頃の関わりの中から変化や気付きを書き上げ、情報を共有し介護計画に反映させている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回利用者の変化を職員で確認し、3ヶ月に1回の見直しに反映させている。本人の状態に変化が生じた場合は現状に即した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診時職員による付き添いや、入院時のお見舞い、洗濯物の預かり、家族の依頼によりホームの車椅子専用車両を貸し出など、本人や家族の要望に対して柔軟な支援をしている。介護福祉士等の職員の専門知識や介護技術を利用者の家族や親戚の人たちに教えるなどしている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を尊重し信頼関係ができているかかりつけ医への受診を継続している。受診の際は主に看護職員が対応し、定期受診時も主治医、看護職の連携をとり支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・看取りの指針を作成し利用開始時に話し合いをしている。家族、医療機関、全職員で日頃から急変時の対応についても話し合いを行い、その方針を共有している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人としての尊厳を重視し、利用者一人ひとりに合わせた対応を心がけている。記録等の個人情報は事務所に保管管理されている。職員とは守秘義務に関する誓約書を取り交わしている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、起床から就寝まで利用者の思いを優先し、朝食は個人のその日の起床時間に合わせて摂れるようにしている。入浴の順番も個人の意向に添い決められており、一人ひとりのペースを大切にしている。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや味見、食事の下準備から後片付けと一連の作業を利用者と職員が一緒に行っている。ホームの菜園で収穫された野菜や地域の方から頂いた農作物、職員家族の手作りの漬物など、旬の食材が食卓を賑わし、介助の必要な方には職員がさりげなく寄り添い利用者と職員が楽しみながら食卓を囲んでいる。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回（火・木・土）と入浴日は決まっているが希望があればいつでも入浴できるようにしている。入浴の順番や時間は特に決めておらず、利用者のその日の体調や気分に応じて実施している。入浴剤や季節の歳時記に合わせた入浴（菖蒲湯・ゆず湯・酒風呂など）の楽しみを支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日のラジオ体操をはじめとし掃除、食事の準備や片付け、洗濯物干し、雨戸の開け閉めや戸締り施錠確認など、一人ひとりの生活歴や習慣に応じた支援や、ホーム菜園まで散歩を兼ねての収穫作業をするなどしている。調査時も収穫したササゲを鞘からはずす作業を楽しみながらしている光景が見られている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望やその日の思いで散歩や買物、日向ぼっこなど、その日の天候や利用者の体調に考慮しながら職員と共に外出できるように支援している。		
（4）安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は玄関の施錠はせず、防犯のため21時から翌朝7時まで施錠している。玄関の出入りはセンサーで感知し、利用者が不意に外に出た場合の安全面への配慮をしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の定期的な訓練と地域校区の避難訓練にも参加している。地域の協力はもとより、消防団員とのつながりもあり、折に付け協力は得られるように働きかけている。今年は夜間想定で19時から20時の間に利用者、職員ともに訓練を行っている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の要望や状態に応じて食事形態を変えるなどして食事摂取できるように工夫している。食事時以外にも最低6回は水分を摂れるよう支援し、ホーム独自の介護実施提供表で1人ひとりの栄養摂取状態が把握できるようにしている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、食堂、トイレには季節の花がさりげなく飾られ、窓越しに見える大きな木から季節の移り変わりを見ることができる。不快な音や光がないようにも配慮されており、落ち着いて居心地よく過ごせるよう工夫している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で馴染んでいた家具調度品や御仏壇、寝具などが持ち込まれており、子供や孫、家族との思い出の写真や本人が趣味や特技で作ったものなどが飾られており、安心して居心地よく過ごせるように工夫されている。		